

自らの命や体を守る対処方法を体験で学ぶ防犯教室

——民間警備会社の防犯教室プログラムを活用して——

福岡市立小田部小学校 校長 大部 節子
〒814-0032 福岡県福岡市早良区小田部6-4-1 Tel (092)845-8330

I 学校の規模及び地域環境

1 学校規模（平成17年5月1日現在）

学級数 24学級、児童数 800名

教職員数 33名

2 地域の環境

子どもの年間転出入数が120名を超えるほど保護者の転勤が多い校区であるが、校区自治協議会が中心となってまちづくり会議を発足させ「安全・安心のまちづくり」を積極的に推進している。特にボランティア団体「だいこんの会」の青色回転灯を設置したミニパトによる登下校時のパトロールなど、住民の防犯や安全に対する意識が高い地域である。

II 取組のポイント

- 1 低・中・高学年に合わせた防犯教室をクラス単位で実施
- 2 民間警備会社作成の指導案をもとにした参加体験型学習
- 3 守りのプロ（民間警備会社員）をゲストティーチャーに招聘

III 取組の概要

1 取組の趣旨

子ども自らが、自分の安全は自分で守ろうとする防犯意識の高揚を図る。

また、教職員が警備の専門家から防犯教育のノウハウを学ぶ機会とする。

2 取組の実際

(1) 全体計画

ア 目標

子どもが命や身体を守るための行動の取り方を学ぶとともに、命の大切さについて実感的に理解

できるようにする。

イ 計画

(ア) 「防犯教室」実施依頼

(イ) 事前打ち合わせ

① 授業内容の選択

② 授業実施日時の決定

③ 指導案の検討・作成

(ウ) 方法

① 各学級単位で授業を実施

② 1単位（45分）時間を使用（学校行事）

(2) 低学年用プログラム「安心して登下校」の活用

ア ねらい

子どもたちが登下校中に危険に遭わないために、子ども一人一人に「自分の身は自分で守る」という危険回避の意識を培う。

イ 内容・方法等

登下校中の様々な危険について気付かせ、具体的な対処方法としての『いかない』『のらない』『おごえをだす』『すぐにげる』『しらせる』の5つを『いかのおすし』という覚え言葉にして身につけさせる。

また、ロールプレイングを主体に、何がどう危険なのか気付かせ、それをどうしたら回避でき、安心・安全に暮らせるか、身をもって楽しく学ばせる。



ウ 展開

(ア) 『いかない』グループに質問

- ①「おかしあげるからおいで」って言われたらどうする？→『いかない』
- ②「新しいゲーム買ってあげるよ」って言われたら？→『いかない』
- ③「おうちの人がかげがしたから病院に連れて行ってあげる」って言われたらどうしよう？→知らない人にはついて『いかない』

(不審者ボードを提示して)

- みんなに質問します。この中でついて行ったらいけないのは誰だと思う？→全員
- ※ 見た目で判断しない→知らない人にはついて『いかない』



(イ) 『のらない』グループに質問

- ①「車に乗った人が、道がわからないから車に乗って連れて行って」って言われたらどうする？→『のらない』
- ②「一緒に迷子の犬を捜すから車に乗って」って言われたら？→『のらない』
 - ※ 他の大人の人に聞いてください→絶対に『のらない』
- ③「ねえねえ小田部小学校はどこ？車に乗ってあげるから連れて行ってよ」って言われたらどうしよう？→「いやだ」

(地図を提示して)

- 「じゃあ地図があるんだけど指差してくれる？」→「いやだ」
「あまり近付くとパッと手をつかまれて車に乗せられちゃうよ」
- ※ 怪しい車には絶対に近づかない→両手を広げたくらい車から離れて

(ウ) 『おおごえをだす』グループに質問

- ① 変な人に追いかけられたり、無理やり連れていかれそうになったら、何て言えばいいですか？→「助けて」
 - 「みんなで大声を出す練習をしてみましょう」→グループごとに「助けて」
- ②「いざって時にも今みたいな声が出るかなあ？」→「出ない」
 - 「もし声が出なかったら、持っている人は防犯ブザーを押してもいいし、笛を吹くのもいいね」
- ③「みんなは防犯ブザーの使い方を知ってるかな？」
(防犯ブザーを提示して)
 - 「押したら逃げるのが大事なんだよ」
 - ※ 防犯ブザー使用上の注意事項
 - ・ 遊びで鳴らさないこと
 - ・ お守りじゃないから鳴らしたら逃げる



(エ) 『すぐにげる』グループに質問

- ① 「変な人に追いかけられたり、声をかけられたり、怪しい車が停まっていたらどこに逃げたらいい？」→「家、交番、店、学校」
 - 「人がいっぱいいる方、明るい方、怪しい車が停まっていたらその車の後ろの方に逃げようね」
- ② 「いつ逃げたらいいのか、実験をしてみようか」

(できればグループごとに全員が参加して)

- 「グループのみんなの後ろから歩いていきます。誰か来たなって感じたら、振り返って走って担任の○○先生の所に逃げてくださいね。」

- ※ 子どもを本気にさせること
 - ・ 必ず子どもは捕まえる。
 - ・ 捕まえる子どもは複数にする。
 - ・ 捕まえられた子どもをゴール地点で待っている先生が助ける。

「今のタイミングを忘れないでね」

(オ) 『しらせる』グループに質問

- ① 「帰り道にナイフを持った人が歩いていたら、変な人に追いかけられたら誰に知らせればいい？」→「大人に」
 - 「何かあったらお家の人とか先生とか大人の人にお話してね」
- ② 「変な人に『誰にも言うなよ』って言われてもそのなの気にしないで知らせてください。必ずみんなを守ってくれるから大丈夫だよ」

(突然教室に不審者が入ってきて子どもの手を掴んで連れて行こうとして)

 - 「何をやっているんだ！大丈夫？怪我はない？今何があった？」→「変な人が来た」
 - 「なんて言ってた？」→「誰にも言うなよ」
 - 「誰にも言うなよって言ってたね。それでいい？」→「よくない。知らせる」
 - 「そうだね。ここはどこ？」→「学校」
 - 「学校だね。学校で知らせる大人は誰かな？」→「先生」
 - 「大正解！じゃあガードマンと一緒に先生に知らせに行こう」
 - ※ 捕まえられた子どもがトラウマにならないように
 - ・ その子に報告をさせること。
 - ・ ガードマンがその子のフォローをすること。
 - ・ 先生は子どもの報告を復唱する。

(カ) 5つの約束『いかのおすし』を復習

- ① 「知らない人にはついて・・・」→『いかない』
- ② 「声を掛けられても車には・・・」→『のらない』
- ③ 「連れて行かれそうになったら・・・」→『おおごえをだす』
- ④ 「変な人に声を掛けられたり、追いかけられたりしたら」→『すぐにげる』
- ⑤ 「危険な目に遭ったり見たりしたら、大人の人に」→『しらせる』



(キ) ガードマンの仕事について

- ※ 体を鍛え、訓練している→子どもは闘ってはいけない。
- 「みんなが登下校していく途中には危険がいっぱいあるんだよ」
- 「今日の『いかのおすし』を思い出して、安心して登校しましょうね」
- 「見かけたら手を振ってくださいね」

(挨拶をしましょうか)
- 「普段から元気な声で挨拶していると、いざって言う時にも大きな声が出るからね」
- ※ 今後の継続指導の内容として、子どもに伝えておくこと。

エ 子どもの感想

- ・ 「いかのおすし」というあいことばを、クイズでせつめいしてくれたので、おもしろくてよくわかった。「いかのおすし」をまもらうと思いました。
- ・ にげるれんしゅうをしたり、わるい人になった人がとつぜん入って来たりして、ドキドキした。これから、おかしいなあと思う人がいたらすぐにげるようにした。

- ・シールやふえをもらってうれしかった。シールはカバンにはって、ふえはあそびに行くときもって行っています。

(3) 中学年用プログラム「安心してお留守番」の活用

ア ねらい

留守番に対する心構えや留守番中に起こりうる危険な電話への対処方法を知り、「自分、家そして自らの身を守る」という防犯意識を高める。

イ 内容・方法等

子どもの留守番に対する意識を明確化し、『いいゆだな』をキーワードに留守番時に起こる危険に気づかせ、留守番に対する心構えを養う。

また、留守番中に起こりうる危険な電話への対応を再現し、その対処方法を身につけさせる。



ウ 展開

(ア) 子どもの留守番に対する意識の明確化

- ① みなさんは「お留守番」をしたことはありますか？
- ② 留守番で楽しいことは？
- ③ 留守番で驚いたことは？
(いたずら電話・ピンポンダッシュ・火事等の意見が出てきたところで)
- ◎ 留守番は楽しいこともたくさんあるが、

あぶない時や危険なこともあります。みんなが安心してしっかり一人で留守番できるようにこれから勉強します。

(イ) 留守番に対する心構えの養成

- ① 実は、お留守番は「お留守番する前」が一番大事なんです。

(各グループへ『いいゆだな』ボードを配布して)

- なぜ「お留守番する前」が大事かを、グループで考えてください。

※ ボードを見ながら、どういうことなのか考えさせること

- ② 『いえのかぎをみせない!』グループの考えを発表してください。

- ・ 登下校中や遊んでいる時、家の鍵をぶら下げたり振り回したりすると、無くしたり落としたりするから。

- ・ 他人に見せたりカバンなどにぶら下げたりしていると、盗まれたり、一人で留守番しているなど誰かに知られたりする危険がある。

- ③ 『いえのまわりをよくみる!』グループの考えを発表してください。

- ・ 怪しい車やバイクが家の周りに止まっているか、知らない人がうろろろしていないか、よく確かめないと危険な目にあうかもしれないから。

- ・ おかしいと思ったら、近所の人や親に連絡する。

※ 「一人で家に入る前が一番危険です!」

- ④ 『ゆうびんポストをチェック!』グループの考えを発表してください。

- ・ 家の郵便ポストに、新聞や手紙がたくさん溜まっていると、知らない人に「この家は誰もいないのか?」と思われるから。

- ・ 郵便物を盗まれて家の情報を知られてしまうから。

- ⑤ 『だれもいなくても「ただいまー!」』グループの考えを発表してください。

- ・ 大きな声で「ただいまー!」と言うことで、他人が見たら「家には誰がいるんだな」と思わせることができるから。

- ・ もし家の中に不審者がいたら、その声で逃げる場合もある。

- ⑥ 『なかにはいってすぐとじまり!』グループの考えを発表してください。

- ・ 不審者や泥棒は鍵が開いていたらどこか

らでも入ってくるから。

- ・ 玄関やベランダの窓などがよく狙われるから。

※「家の中に入ったら直ぐに鍵をかける癖をつけよう！」

- ⑦ 留守番する前に、注意して欲しいことが、この5つのお約束『いいゆだな』です。

※ この約束を守り、しっかりお留守番ができたなら、おうちの人も帰ってきて、おいしいご飯が食べられて、お風呂に入って「いい湯だな！」

(ウ) 不審電話の対応

- ① 一人でお留守番の時に、もし電話がかかってきたらどうする？

(プルルルル・プルルルル・プルルルル・・・)

○「こんにちは！おうちの人もいる？」

→「いま誰もいません」

○「そうか、一人なんだね」

→「はい、一人でお留守番しています」

○「お留守番、えらいね。何してるの？」

→「ゲームをしています」

○「そうか、じゃあ新しいゲームソフトを送ってあげるから、あなたの家の住所を教えてください！」

→「ありがとう。住所は小田部6丁目ですよ」

○「今すぐ行くから待っててね」

- ② 今の電話の受け方どうだった。みんなだったらどうする？

- ・ 電話に出ない
- ・ 留守番してると言わない
- ・ 住所は言わない
- ・ 留守電にする

※ 正解対応ボードを張り出しながらまとめていくこと。

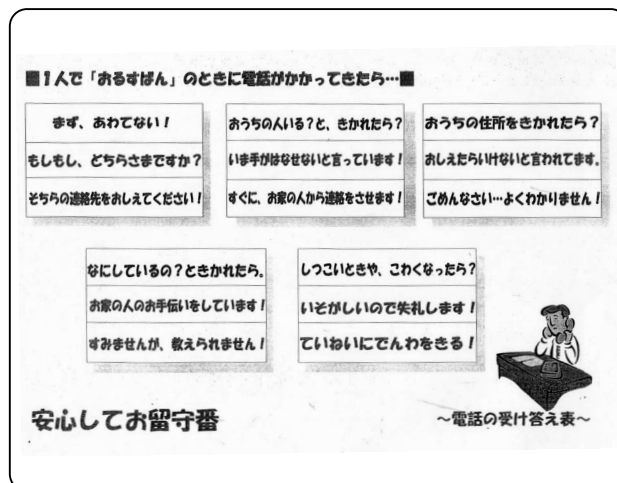
- ③ それでは、今日はみんなに電話のかけかたを練習してもらいます。

(自主的にやりたい子どもから体験させる)

※ 指導上の注意事項

- ・ 子どもの自然な会話を聞き、言葉に詰まったり間違えそうになったりしたら、正解ボードを指差し、上手に対応できるように支援する。
- ・ 「ガチャ」と途中で切ってしまう子どもには、どんな相手に対しても「マナー」は大切なことを伝える。
- ・ 電話対応が終了したら、全員で拍手、一

人一人の良かった点・注意点を簡単に全員に説明する



(エ) 留守番前のやくそくと電話対応の復習

- ① 『いいゆだな』をみんなで読んでみよう。

- ② 電話の対応を大きな声で言ってみよう。

(正解対応ボードのポイントを数箇所読み上げさせる)

エ 子どもの感想

- ・ ぼくはいつも一人なので、よく電話に出ます。今までに1回だけ今日練習したようなことがありました。しつこかったのでこわかったです。今日練習したことを忘れません。
- ・ 私は電話を受ける役になりました。それで、家で何と言えればいいか分かりました。「今、手がはなせません。」や「いそがしいので失礼します」など、初めて知りました。母に「電話はとりなさい」と言われているので、家で使おうと思いました。

- (4) 高学年用プログラム「安全な街って何だろう」の活用

ア ねらい

街に潜む危険な場所や場面などを探し、なぜ危険なのか理由に気づかせ危険対応能力を高める。

イ 内容・方法等

地図をもとに、街に潜在する危険(犯罪や火災、交通事故など)な場所や場面探しの作業を通して、どのような事に気をつけて行動をすればいいのか考えさせる。

ウ 展開

(ア) グループで街の危険探し

(各グループに地図、各個人にプリントを配布して)



- ① 地図を見て危険だと思う場所を探し、その理由をプリントに記入してください。
- ※ 指導上の注意事項
- ・ 内容（犯罪、火災、交通事故など）は何でもよく、危険を探すことに目的を置く。
 - ・ グループ内で意見をまとめ、後で発表してもらうことを伝える。
 - ・ グループで役割分担をさせておく。



- ② グループごとに、危険な場所とその理由を発表してもらいます。
（場所を指す人と発表する人を前に出して）
- 「特に注意したい場所について、どうして危険なのか説明してくださいね」
- ※ いい意見が出たら、その都度みんなで復習
- ※ 危険な場所が全部出そろってない場合は、追加で説明

(イ) 危険対応の方法について

- ① 街を守る人の話を聞いて、どのようなことに気をつけて暮らせばよいか考えよう。

（体験談を通じ、身近にある危険を伝える）

- ② 暗い道・繁華街について、どのようなことに気をつけているか、気をつければよいか考えよう。
（危険な場所、場面を黒板に書き、プリントに記入させる）
- ③ 考えたことを発表してください。
（子どもの考えをもとに、危険対応の方法を教える）



(エ) 防犯について

- ① 「防犯」って何か知っていますか。
（板書し、質問する）
- ② みんなが毎日安全に暮らせるよう、今日学習したことを忘れないでください。
（今日の授業を忘れないために、ステッカーを配布する）

エ 子どもの感想

- ・ ふだんあまり気にもしなかった街の中の危険なところに気がきました。とにかく、逃げるのが一番だということが、よく分かりました。
- ・ 地図の中の危険な場所さがしでは、2カ所見つけられなかった。実際に校区内にもこういう危険な場所がたくさんありそうなので、近づかないようにしたいです。また、この教室で学んだことを登下校中や遊びに行くときに活かしていきたいです。
- ・ 自分で危険な場所を見つけることができ、すごく楽しかったです。夜の道はあまり歩いていないけど、危ないことがよく分かりました。とくにゲームセンターなどが危ないことが分かりました。この学習をして、ますます気を付けようと思いました。

3 実践の成果

民間警備会社の防犯教室を活用した結果、次のような成果があった。

- (1) 低・中・高学年用のプログラムが用意されていたため、子どもの意欲や関心の高まりがみられた。
- (2) 基本指導案が専門的な視点から作成され、電話等の道具を使っての指導であったため具体的・実践的であり、子どもの防犯意識を醸成することができた。
- (3) 警備の専門家をゲストティーチャーに、学級単位で実施したので、子ども一人一人に具体的に細かな指導ができた。
- (4) 詳細な内容と支援の仕方等、専門的な立場からの防犯教育を学ぶことができた。

4 課題等

- (1) 防犯意識や対処能力を高め、定着させるためには、定期的・継続的な指導が必要である。
- (2) 学習内容が普段の生活に潜んでいる危険への対処法であり、地域・家庭と連携した取組が必要である。
- (3) ショートの学級指導で実施できるプログラム(指導内容)や、各学年に応じたプログラムの開発・改善が必要である。
- (4) 本年度の防犯教室実施計画が1単位時間だったため、校内に不審者が侵入した場合の対処法について計画できなかった。